

継続して作品を飾らせて頂いております。半月毎に十五枚で作品は取り替えます。(合計一ヶ月三十枚)。家にずーっとしまっておいた絵、又日の目を見なかつた絵、昔の絵、会員それぞれ持ち寄って頂き、その場で皆さんの絵の題名などを手書きします、それも私のお仕事です。さながら小さな美術館のようです。

最近はお茶店従来のお客様のほかに会員それぞれの関係者、又私達も毎回変わった作品を見るのがうれしい、店長様も楽しみとか、お客様の中には絵に関心を持つ方が興味深くジイっと観ていらつしやるとか(お店のスタッフの言葉) 朝九時二十分集合↓十時までに至急飾ります。終つてホットして！ オーダーが私たち会員のお店へのお礼です。



十時開店 私たちはお客になります。明るくなった店内、美味しいコーヒーを飲みながら飾つた作品を再度鑑賞、絵の好きな仲間との会話はとても楽しいものです。月に三回の集まりのまとめなどのお手伝いをこれからも続けたいと思います。

私は幼い頃から絵を描くことが好きでつねに白い紙を探して絵を描いていたそうです。遠い昔の話です。今も絵を描くのが大好きです。今この年齢になって人生私なりの経験、喜び、悲しみ、苦しみ、嬉しいことも「Etc.」絵はそれを受け止めてくれる色とりどりの絵の具に変えて、絵に向かっている時は一番私の大切な至福の時です。出来栄えはともかく、これからも大切な時間を絵とともに生きていきたいと思えます。ご指導のほどよろしくお願ひ致します。

精霊流し 住佐美紗子

夏、今年の夏は、ことのほか暑い。この季節になるとどこからともなく、あのメロディが耳の奥で聞こえてくる。さだまさしの精霊流しの澄んだ高い声。

歌の精霊流しの舞台は長崎だが、私は福岡の街で感動の体験をした。学生時代からかわいがってくれた博多に住んでいた実業家夫妻の奥さんの新盆にお参りしたときの事、街の中を流れる川の両岸は精霊船と呼ばれる船に花や果物、故人の愛用したものなど盛り付け、大きな船は人が

乗れる位もある立派な船の両側を家族や知人が持ち河口の近くまで運ぶ。花火や爆竹が上がったり賑やかで美しい光景なのだが身内の人にとつては亡き人を想ってしんみりと、あるいはそつと涙をぬぐう人もいる。



この光景は私にとつてショックともいう情景だった。勝手に不作法だったものに贅沢とはどんなものか経験させてくれ、その為に日常の生活の中にきちんとしたルールを示し諭してくれた人だった。センス抜群、時には「東京は場末よ」と凄ことを言う人でもあった。贅沢な生活を知っても決してそれに当たり前にはまらない事も教えてくれた。精霊流しは夏になると必ず思い出す、懐かしく暖かな故人の優しい思い出である。

美術・アート・観てある記

「タでいい」 「タがいい」 石原修

私の住んでいる佐倉市には、60歳以上を対象とした「佐倉市民カレッジ」という4年制の老人大学があり、私はその卒業生です。学則には、高齢化社会の中で市民が健康で生きがいを持ち、地域の連携をもちながら住みよいまちづくりを考え、「とあります。平たく言えば、仲間を作つて、老後を元気に楽しく過ごしましょう、という趣旨です。

私が入学したのは定年の翌年でしたのでもう15〜16年前になりますが、今もいろいろな趣味やスポーツでの交流が続いています。趣味の一つに絵も描くグループ「あじさいクラブ」があります。スローガンはシルバークの香り「遊ぶ・楽しむ・挑戦する」です。絵手紙と遊び、パークゴルフを楽しむ、カッティング画に挑戦!と、如何様にも。簡単にすぐ描ける」というところが受けてか、絵手紙の時間は結構人気があります。

絵手紙の教本「心を贈る絵手紙入門」(NHK趣味悠々講師 小池邦夫・小池恭子)や「鶴太郎流心で描く絵だより入門」(主婦の友社片岡鶴太郎)等が、あじさいクラブ10数名の講師です。教本のタイトルには、何故か「心」が強調されています。心構えとして、①不器用は個性、それが心を打つ ②描く対象は身近なモチーフ ③合言葉は「タでいい」「タがいい」 ④下書きも描き直しもない、ぶつつけ本番 等々。

絵手紙は小池邦夫さんの「タでいい」「タがいい」が効いたのか、近年、全国的に人気上昇中のようで、地元、佐倉市でも公民館や市立美術館で絵手紙展が活発に催されています。昨年、新日美術奈川支部展の会場で、Kさんに自作の絵手紙団扇を見せて戴いたのがきっかけで、大崎にある絵手紙ギャラリーを紹介して戴き、早速出向きました。

そこは、JR大崎駅西口すぐの大崎ウエストギャラリーで、3つの部屋すべてでグループや教室の絵手紙展が行われていました。ところせましと並べられた大小の力作に感激です。お気に入りの作品をカメラに収めようとしたところ、「撮影禁止」の表示が目に入り断念。

帰りに受付で「山路智恵絵手紙美術館ニュース」を戴きました。A3サイズ二つ折りの表紙を飾っているのは、山路さんが墨一色で描いた松本城で、なんと1800×1800cmの大作です。次頁にはレインボーブリッジを前にして、180×360cmの和紙と向き合つて制作中の本人の写真と、その完成作品。これも絵手紙というのか?と、只々驚くばかりです。長野県にあるこの美術館を、青春18きっぷ発売期間中に一度は訪ねたいと思つています。

新緑の頃、東京都美術館で開催される新世紀展の招待券が、関西に住む先輩から今年も届きました。5月のある日、一年ぶりに作品に対面しようと出掛けました。この日、偶然にも別の部屋でNHK学園主催の絵手紙展が開催中でした。早速のぞいてみました。新日美展と同じ2ブロックの展示室を葉書、巻紙等の小さな作品が埋め尽くされています。間違いなく日本最大規模の絵手紙展に、大興奮、大満足でした。

興奮冷めやらぬうちに、NHK学園通信講座の資料を取り寄せました。その表紙は、小池邦夫のたのしい絵手紙とあり、次ページには、
「絵手紙はラブレター」
「タでいい」「タがいい」の文字と
「心」で描いた絵手紙が溢れていました。

